

株式会社オプティマスグループ 経営計画(2023年3月期～2025年3月期)

株式会社オプティマスグループ
東証スタンダード市場
(証券コード9268)
2022年5月13日



□経営理念・これまでの足取り

□事業戦略と展望

□経営計画(2023年3月期～2025年3月期)

□参考資料

経営理念・これまでの足取り

経営理念：『正しく公平な経営により、最善の貢献を図る』

グループビジョン

- 楽しく安全な移動手段と、一人一人に最適なサービスを提供する事業を究める
- 新しい価値や革新的なサービスを創り出し、未来に向かって事業を拓く
- すべてのステークホルダーと自然との共栄を図り、世界人としてグローバル社会の発展に貢献する

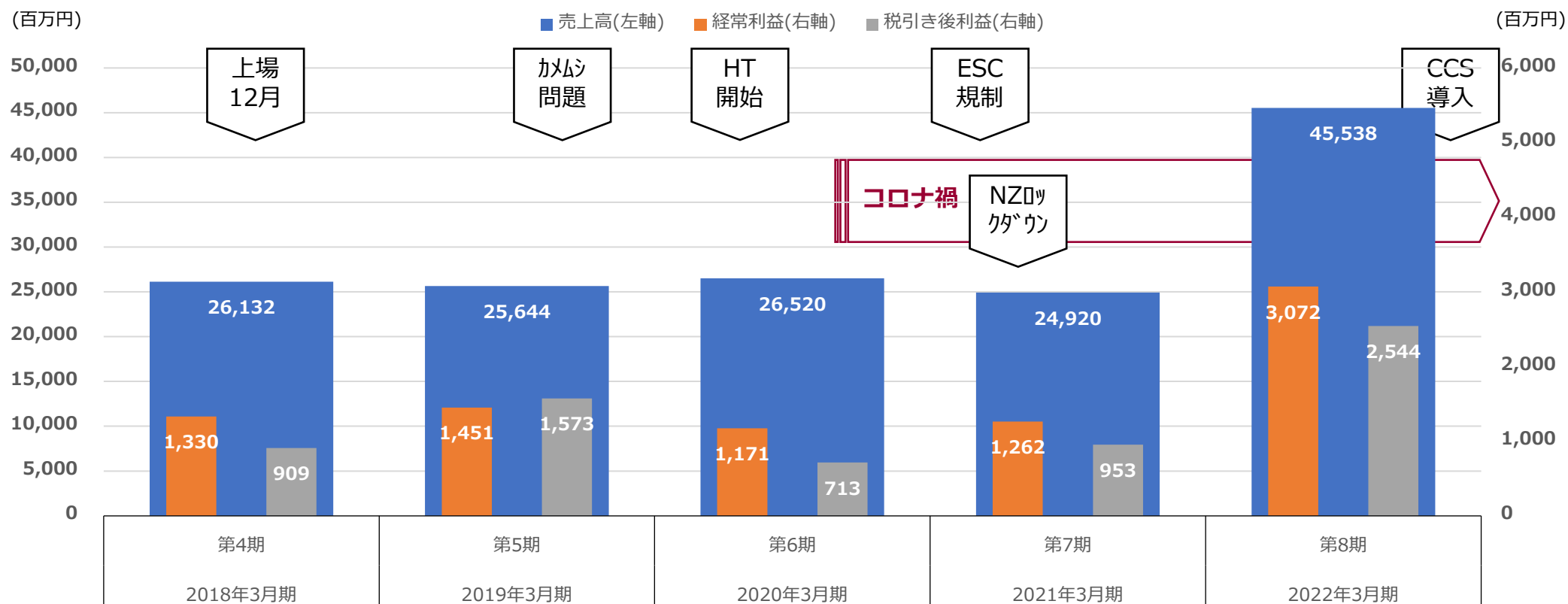
これまでの足取り（主な出来事）

1988年	4月	日本	(株)日貿・ジャパントレーディング(現(株)日貿) 設立	貿易セグメント
1989年	5月		ニュージーランド向け中古自動車輸出事業に着手	
2001年	9月	日本	(株)日本輸出自動車検査センター（JEVIC）設立	検査セグメント
2012年	2月	NZ	Dolphin Shipping Agencies（現 Dolphin Shipping New Zealand）設立	物流セグメント
2013年	2月	NZ	Vehicle Inspection New Zealand（VINZ） TOBにより子会社化	検査セグメント
2015年	1月	日本	(株)オプティマスグループ 設立（傘下グループ会社25社）	
2015年	2月	NZ	Universal Finance Company 設立	サービスセグメント
2017年	12月	日本	(株)オプティマスグループ 東京証券取引所 市場第二部上場（傘下グループ会社27社）	
2019年	11月	オーストラリア	OzCarと事業提携、オーストラリア展開のプラットフォーム構築	オーストラリア

上場後の業績推移

売上高・経常利益・税引き後利益と出来事

業績推移



日買取扱い台数	合計	37,089	31,405	37,283	36,084	45,290
	内NZ向け	36,560	30,874	36,551	35,089	39,736
NZ輸入中古自動車台数		156,000	149,000	141,000	108,000	120,000
NZドル平均レート(円/NZD)		79.24	75.57	70.41	71.16	78.27

事業戦略と展望

事業戦略と展望

■ 事業戦略

□ ニュージーランドモデル (バリューチェーン)

輸出・ロジスティクス・検査・金融サービス・卸売・
アフターサービス他

□ オーストラリアモデルの構築

国内自動車事業プラットフォーム・データサービス他

□ 新市場への展開

- ・ ニュージーランドモデルのオーストラリア・欧州への展開
- ・ オーストラリアモデルの他地域への展開

■ 展望

□ ニュージーランドモデルの強化 ⇒ 売上高400億円・経常利益30億円・税引後利益20億円。

□ オーストラリアモデル構築 ⇒ シナジー踏まえた自動車関連事業の展開。

□ 他地域への展開 ⇒ 売上高1000億円・税引後利益50億円、更なる拡大



経営計画(2023年3月期～2025年3月期)

チャレンジの継続

■既存事業の収益力強化

- ニュージーランドモデル(バリューチェーン)の強化、他地域への展開

■新規事業による成長

- オーストラリアモデルの構築、新市場への足掛かり

経営資源の効率追求

■効率化追求による経営コストの削減

- 地域HQのシェアードサービス機能追求
- 地域別資金調達の深化

■事業発展を支える市場政策と経営人材育成

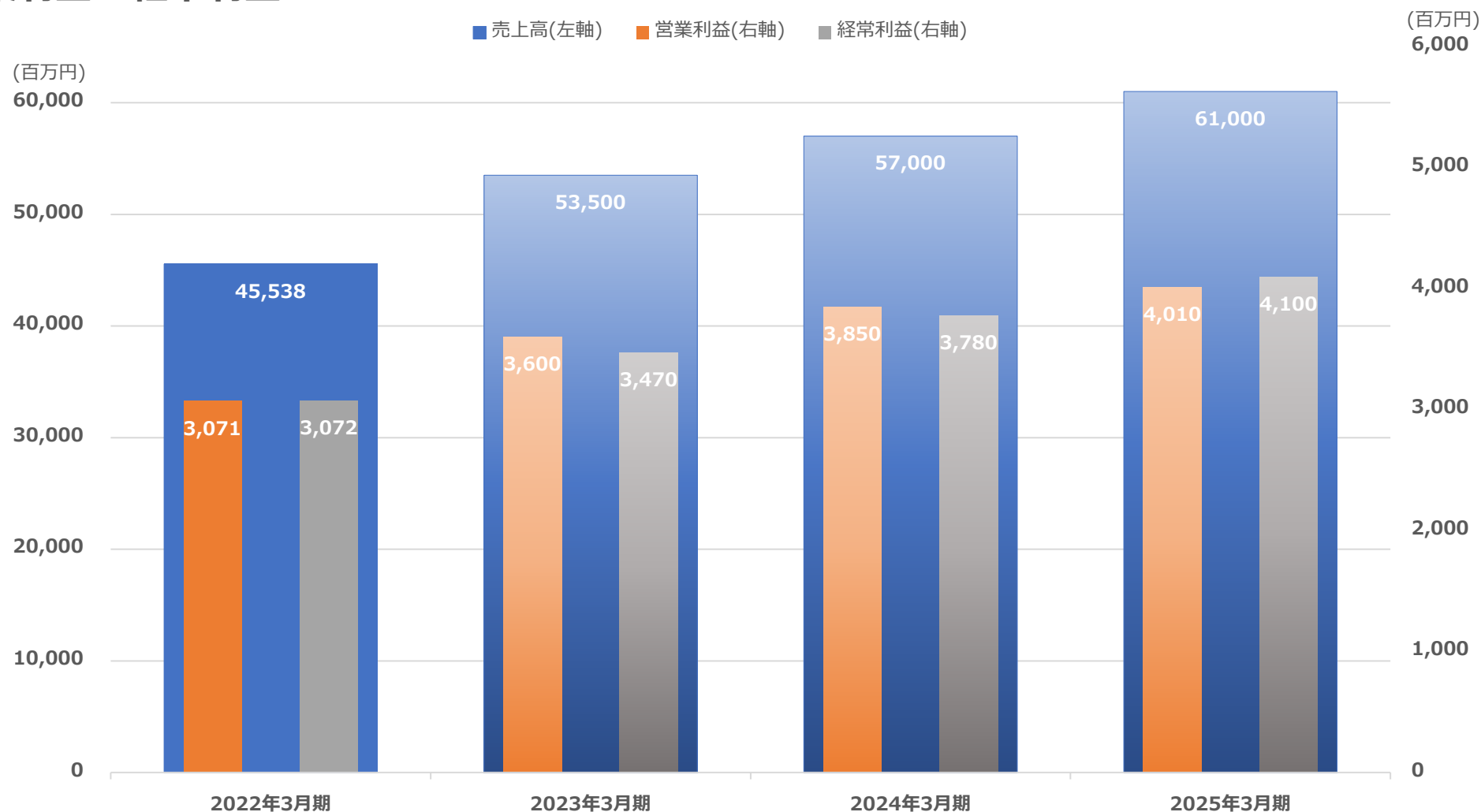
- 資本政策の充実、サステナブル経営への進化
- グループ経営人材育成プログラム

チャレンジの継続(セグメント別)

セグメント	主なチャレンジ
貿易	<ul style="list-style-type: none">□ NZディーラーネットワーク強化（バリューチェーンの延伸）□ オーストラリア・欧州市場への展開
物流	<ul style="list-style-type: none">□ 貿易セグメントの拡大を支える物流確保□ セグメント単独新規商材の拡充□ M&A含む現地物流・港湾ビジネスの拡充（バリューチェーンの延伸）
サービス	<ul style="list-style-type: none">□ オートローン事業の効率的拡大□ エンドユーザー向け事業の強化□ データサービス事業の拡大
検査	<ul style="list-style-type: none">□ 仕向地・拠点・取引先の拡大□ 新しいサービスの開発
オーストラリア	<ul style="list-style-type: none">□ 自動車販売事業・データサービス事業の拡大□ 新しいサービスの開発によるオーストラリアモデルの構築
新地域	<ul style="list-style-type: none">□ 移動手段の変革も見据えた新たな商材・市場の開拓

中期定量計画(2023年3月期～2025年3月期)

□ 売上高・営業利益・経常利益



※売上高・営業利益・経常利益の数値について、2023年3月期は計画値、2024年3月期と2025年3月期は目標値

中期定量計画(2023年3月期～2025年3月期)

単位：百万円	2022年3月期 実績	2023年3月期 計画	2024年3月期 目標	2025年3月期 目標
売上高	45,538	53,500	57,000	61,000
営業利益	3,071	3,600	3,850	4,010
経常利益	3,072	3,470	3,780	4,100
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,544	2,330	2,560	2,800

配当性向

30%

(事業用資産のリサイクル原
資を除く)

ROE

15%以上

Debt Equity

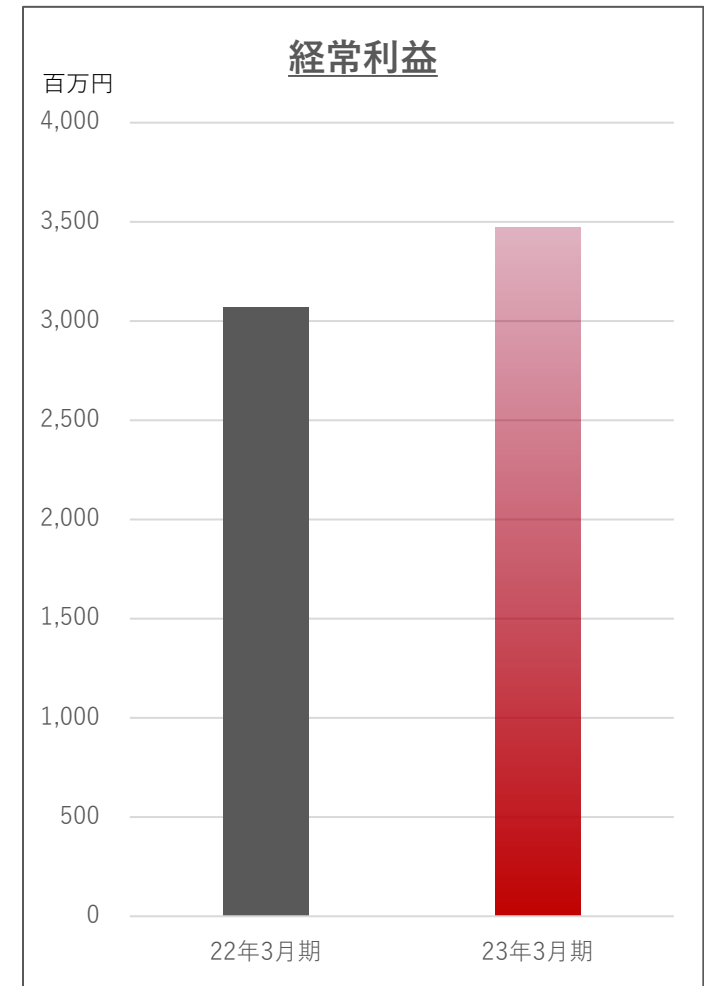
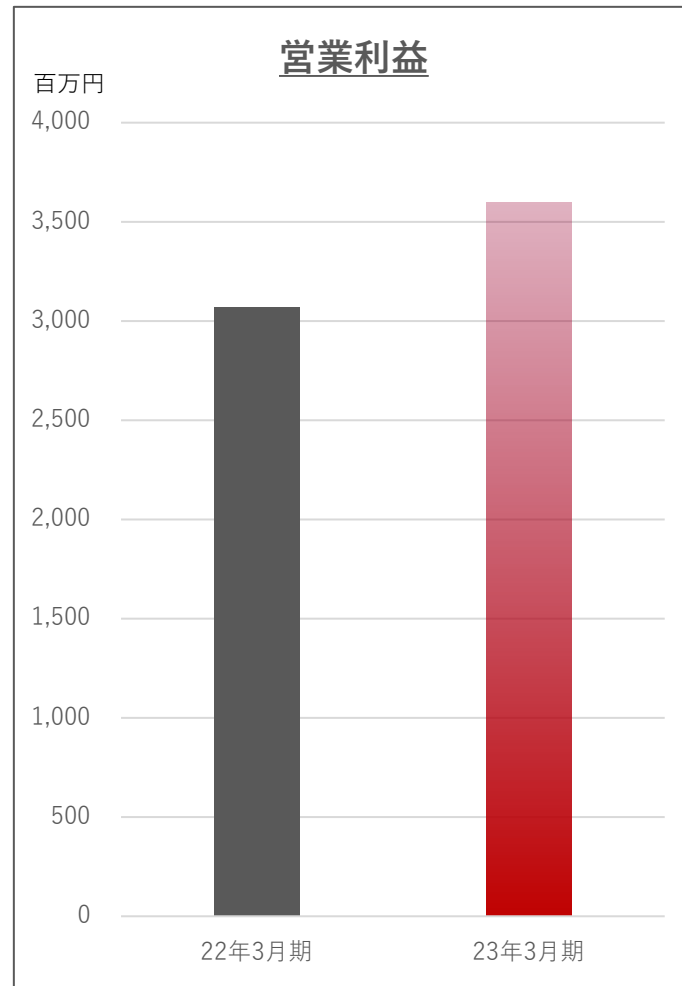
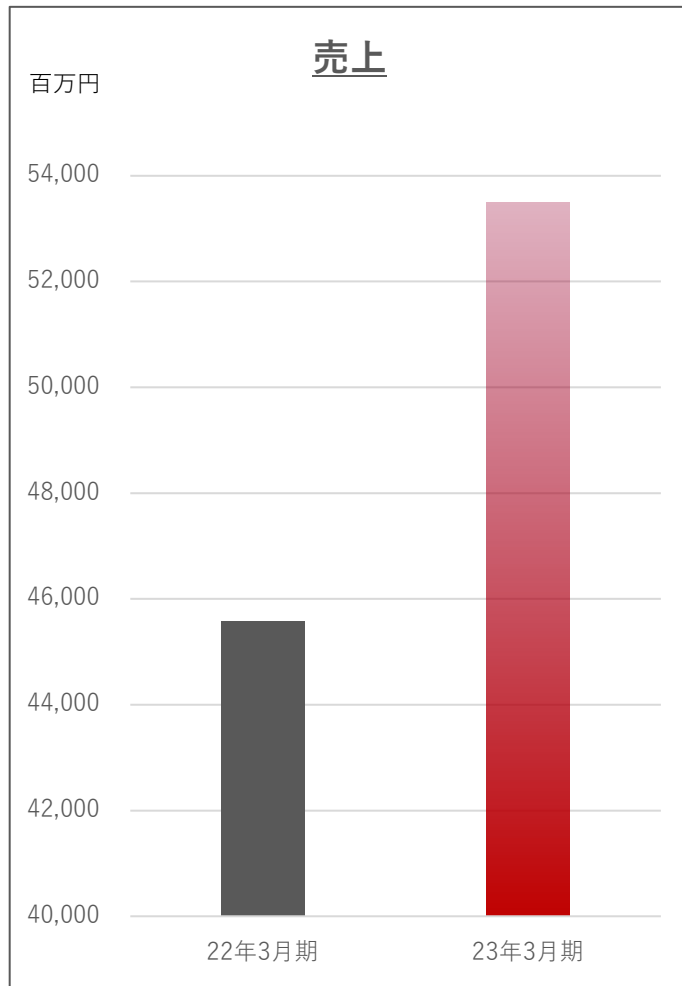
2 : 1

オートローン債権
/連結流動資産

40%以下

2023年3月期計画

2023年3月期連結定量計画



2023年3月期連結定量計画

売上高	クリーンカースタンダード等によりニュージーランド輸入中古自動車市場横ばいを想定。ニュージーランド向輸出はシェアを維持、欧州向などでの台数確保で、増収を計画。
経常利益	輸出及び周辺事業での取扱増加、オーストラリア事業投資からの利益拡大等により増益。
当期純利益	22年3月期事業用資産売却益465百万円を特別利益に計上（当該特別利益を除く22年3月期当期純利益は2,123百万円にて23年3月期は実質207百万円の増益を計画）。

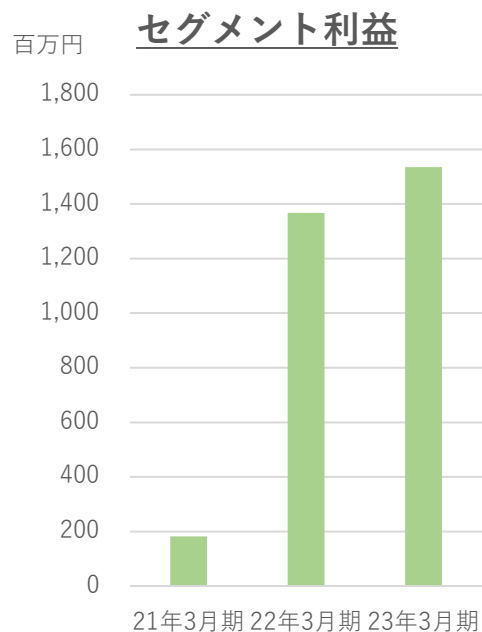
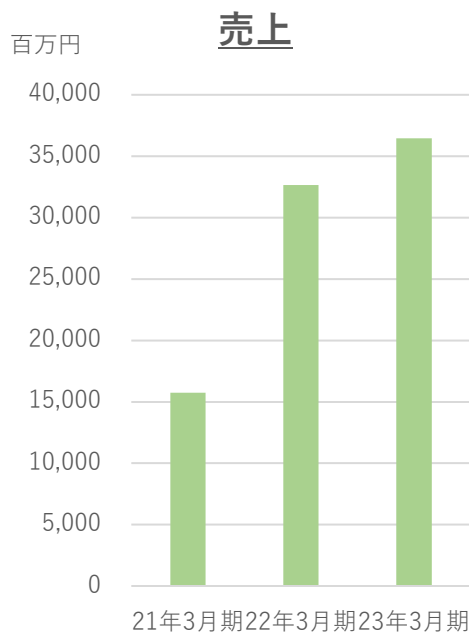
単位：百万円	2022年3月期 実績	2023年3月期 計画	対前期比 増減	対前期比 増減率
売上高	45,538	53,500	+7,962	+17.5%
営業利益	3,071	3,600	+529	+17.2%
経常利益	3,072	3,470	+398	+12.9%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,544	2,330	-214	-

※1NZ\$ = 82円で想定

2023年3月期セグメント別定量計画

【貿易セグメント】

単位：百万円	2022年3月期 通期	2023年3月期 通期	増 減	増減率
売上高	32,644	36,458	+3,814	+11.7%
セグメント利益	1,367	1,535	+168	+12.2%
従業員数(臨時社員含)	65	68	+3	+4.6%



【セグメント予想】

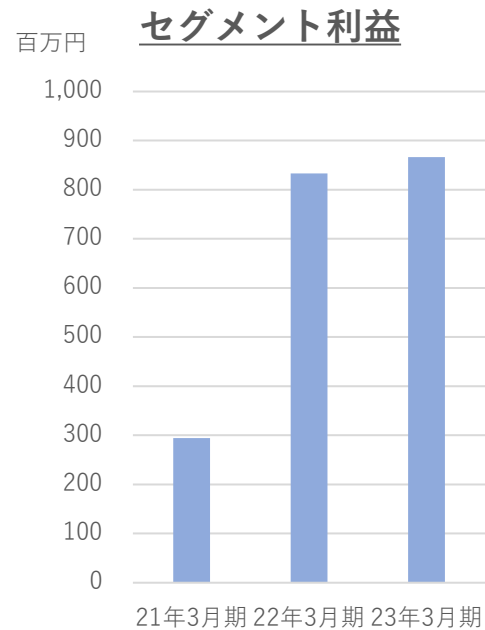
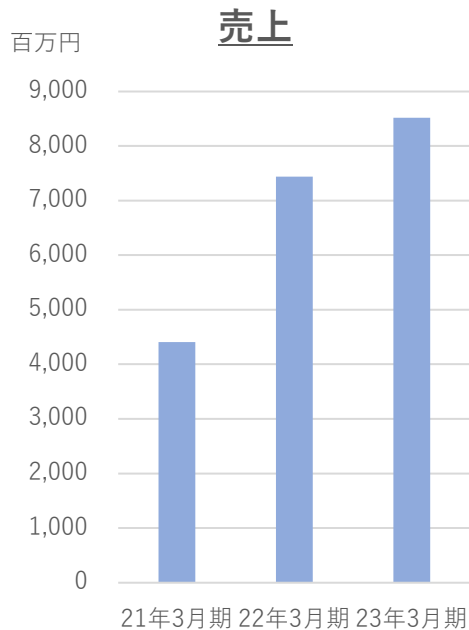
<増収増益>

- 23年3月期はNZ、オーストラリア、欧州向け中古自動車輸出は増加する見通し。
- グローバルな中古自動車の値上がり等を背景とした中古自動車価格の上昇は期中継続すると思われるため、利益は増えるが、利益率は低下する可能性あり。
- リスク要因は、輸出市場におけるCOVID-19 再拡大による消費者への行動制限、船腹確保困難による輸出車両の滞貨など。

2023年3月期セグメント別定量計画

【物流セグメント】

単位：百万円	2022年3月期 通期	2023年3月期 通期	増 減	増減率
売上高	7,405	8,515	+1,110	+15.0%
セグメント利益	827	866	+39	+4.7%
従業員数(臨時社員含)	53	61	+8	+15.1%



【セグメント予想】

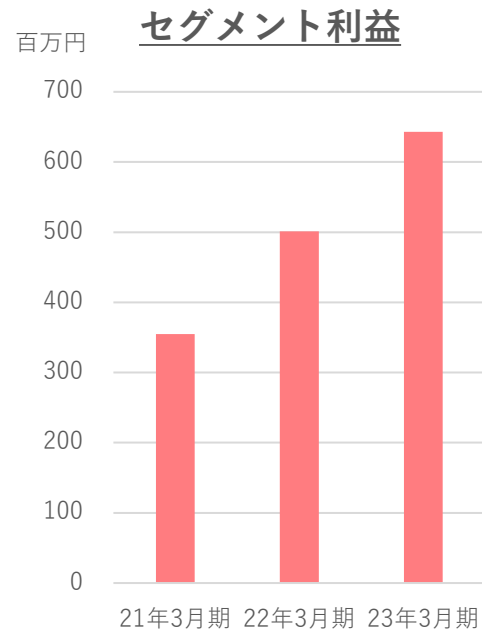
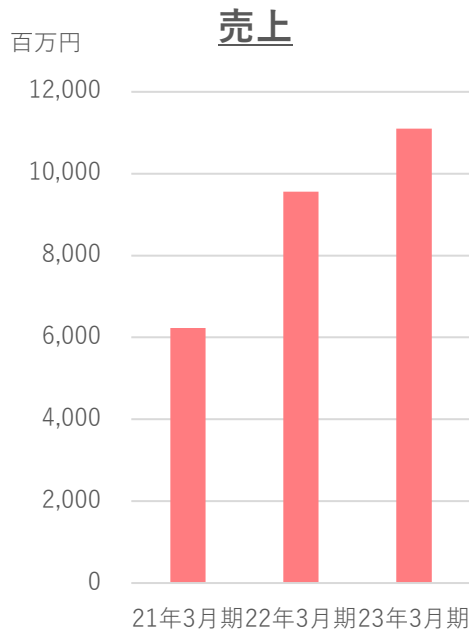
<増収増益>

- Dolphin Shipping New Zealandの取扱台数は日貿の販売台数増の影響で増加する見込み。
- 欧州等への販売増は大和ロジスティクスの業況へのサポート材料となる。
- リスク要因は、海運業界における船腹需要過多で、予定どおりに自動車を輸出出来ない場合。

2023年3月期セグメント別定量計画

【サービスセグメント】

単位：百万円	2022年3月期 通期	2023年3月期 通期	増 減	増減率
売上高	9,561	11,104	+1,543	+16.1%
セグメント利益	501	643	+142	+28.3%
従業員数(臨時社員含)	109	120	+11	+10.1%



【セグメント予想】

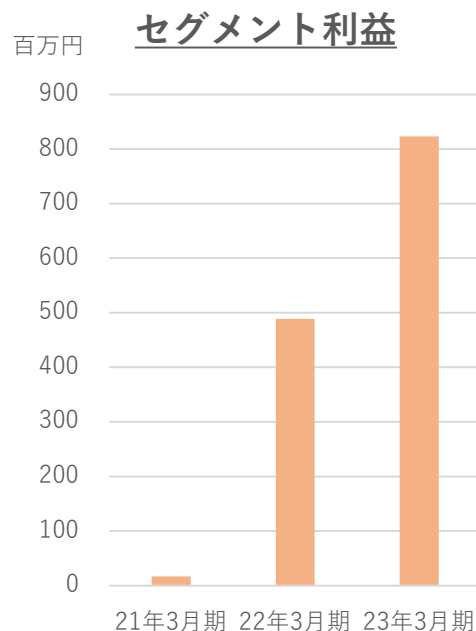
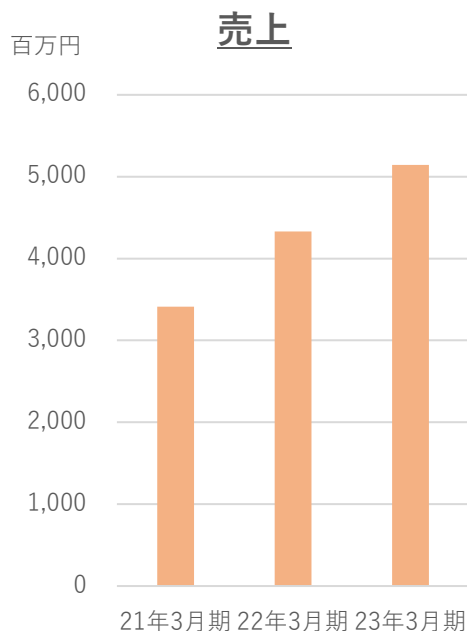
<増収増益>

- NZに於いて中古自動車の卸売りをを行うTrade Carsでは前期並みの販売台数となることを企図。
- NZで個人向けに中古自動車購入資金のローンを貸出しているAuto Finance Directでは、前期はCOVID-19の影響と新貸出規制の対応で貸出残高が延びなかったが、今期は増加を見込む。

2023年3月期セグメント別定量計画

【検査セグメント】

単位：百万円	2022年3月期 通期	2023年3月期 通期	増 減	増減率
売上高	4,136	5,143	+1,007	+24.3%
セグメント利益	498	823	+325	+65.2%
従業員数(臨時社員含)	296	325	+29	+9.8%



【セグメント予想】

<増収増益>

- 日本のJEVIC、NZのVINZ共に検査市場においてシェアの増加を目指す。
- またJEIVCでは、売上原価や販管費の減少も計画している。
- リスク要因はCOVID-19 再拡大や、物流事情の悪化による検査台数の減少。

2023年3月期セグメント別定量計画

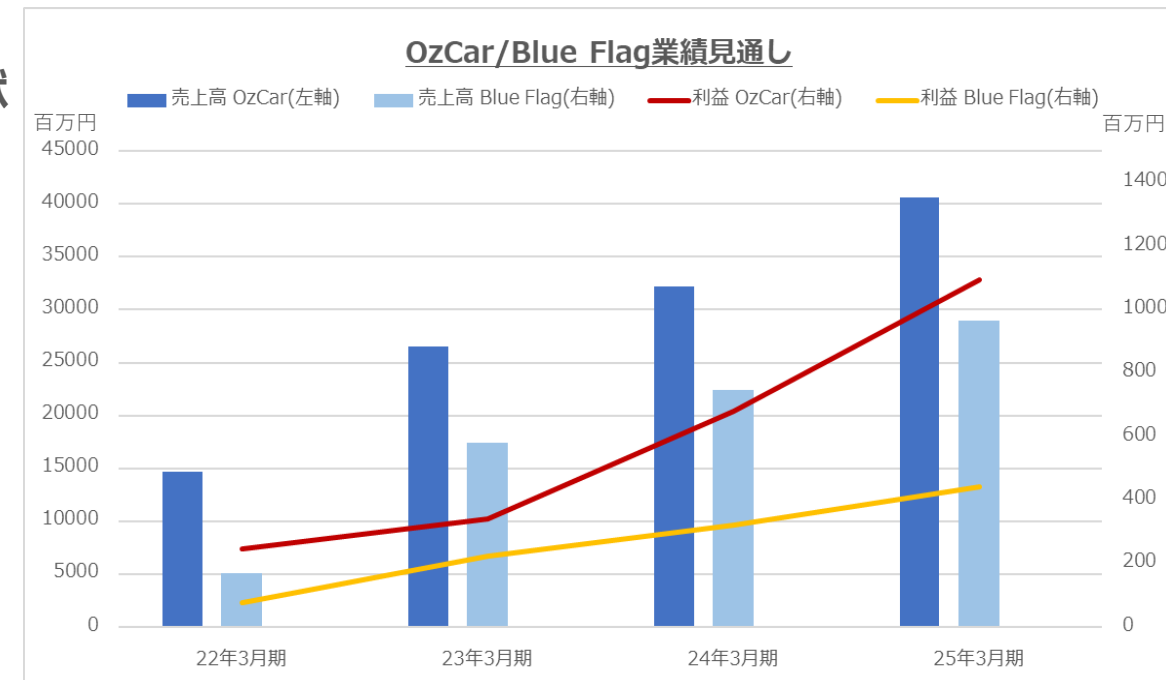
【オーストラリア】

■ 事業概要

- 中古自動車ディーラーのOzCarを2021年5月から持分法適用会社化
- 自動車関連データサービス提供会社のBlue Flagを2022年1月から持分法適用会社化

■ オーストラリア(OPT AU Group)の連結利益への貢献

単位：百万円	22年3月期 実績	23年3月期 計画	24年3月期 目標	25年3月期 目標
売上	1,197	1,355	1,725	2,065
営業利益	50	22	42	72
税前利益	80	242	479	808
税後利益	47	239	468	785
のれん償却後利益	6	-10	88	258



■ 2023年3月期予想

- OzCarでは、現地での旺盛な中古自動車需要と、同社の店舗増加計画で増収増益の見通し。
- Blue Flagでは固定客及び新規顧客への販売により業績堅調を見込むが、のれんの償却が負担となる。

配当予想

- 当社は株主の皆様に対する安定的な利益還元と継続的な企業の成長の双方を経営の最重要課題の一つとして位置付けております。
- 当社が決算短信等で従前公表しております「配当性向30%」の指数より低く表示されておりますが、いずれ再投資に振り向ける事業用資産のリサイクルに係る特別利益計上分などを除外した純利益を原資とするためであり、その約30%の配当性性向を維持しております。

	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	増減
中間配当 (3分割前)	18円33銭 (55円00銭)	23円00銭 (69円00銭)	+4円67銭 (+14円00銭)
期末配当 (3分割前)	28円33銭 (85円00銭)	30円00銭 (90円00銭)	+1円67銭 (+5円00銭)
配当合計 (3分割前)	46円66銭 (140円00銭)	53円00銭 (159円00銭)	+6円34銭 (+19円00銭)

(注)尚、先行き不透明な状況に鑑み、業績の変動に拠っては配当額の変更もあり得ることをご理解ください。

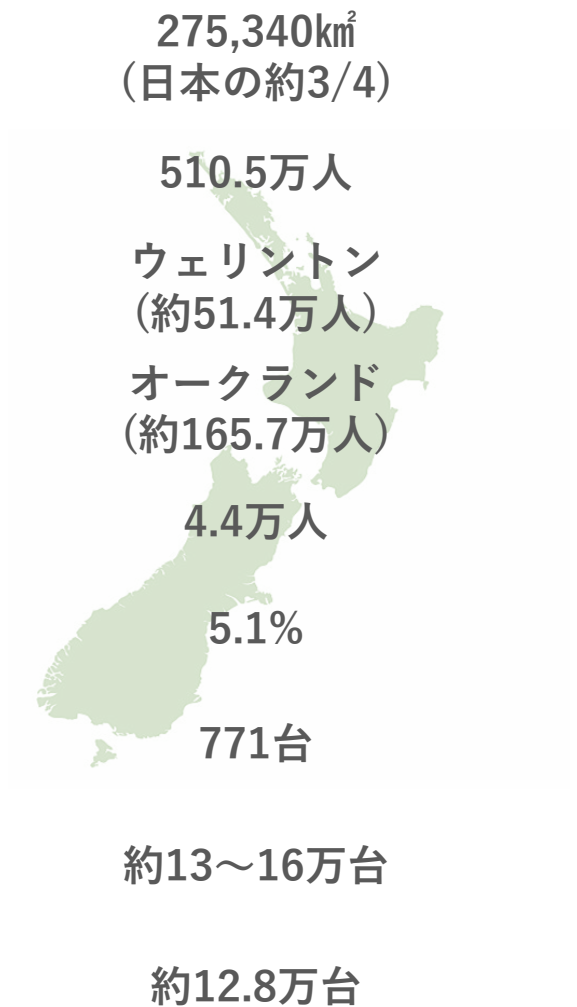
參考資料

Optimus Group

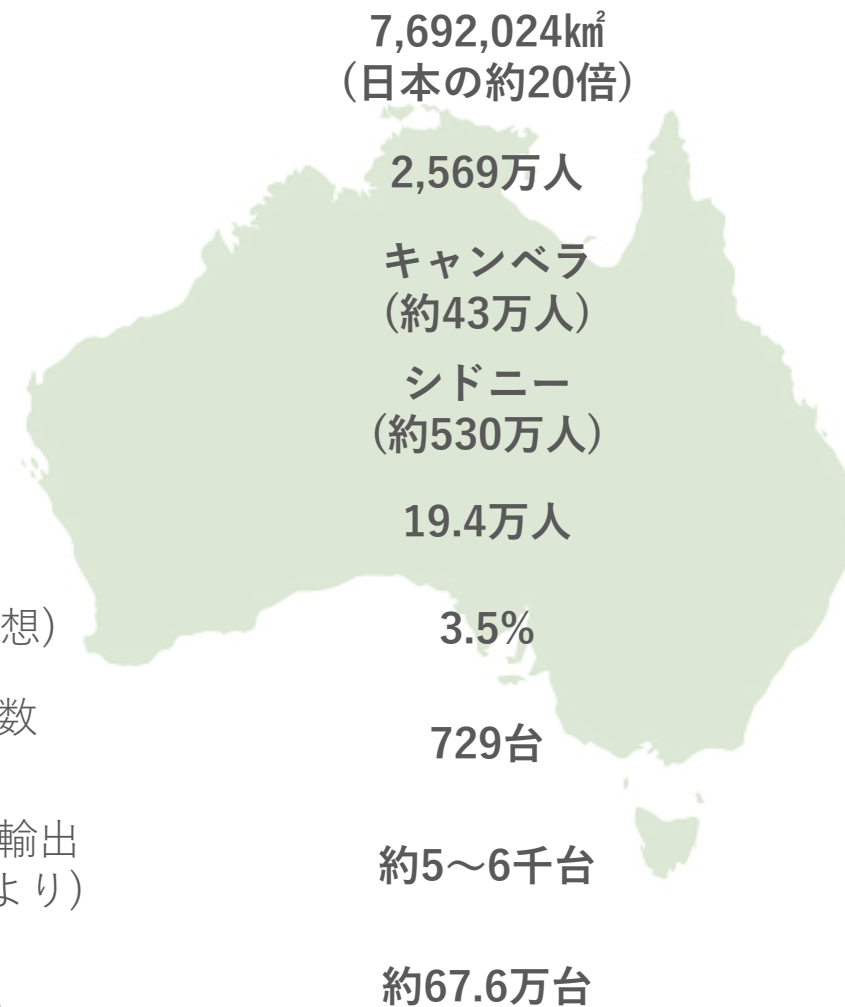
当社グループのマーケット特性

■主要数値比較

New Zealand



国土
人口(2020年)
首都(人口)
最大都市(人口)
移民数(2020年)
GDP成長率(2022年IMF予想)
千人当たり自動車保有台数 (2019年)
日本からの中古自動車概算輸出 台数(2017~2019年統計値より)
新車登録台数 (2020年乗用車/商用車)

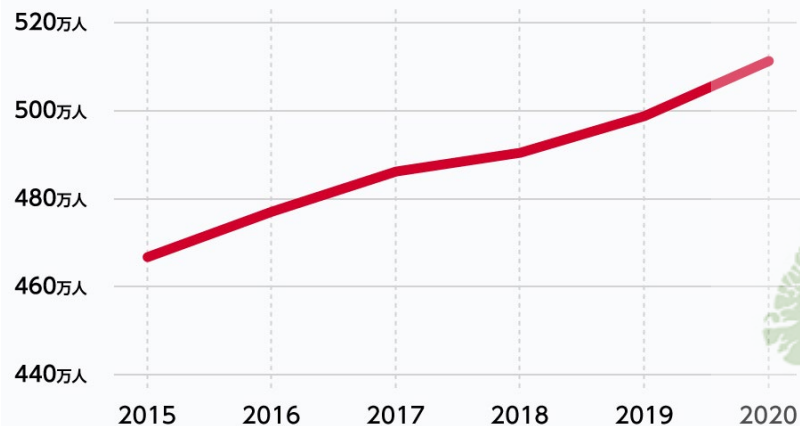


Australia

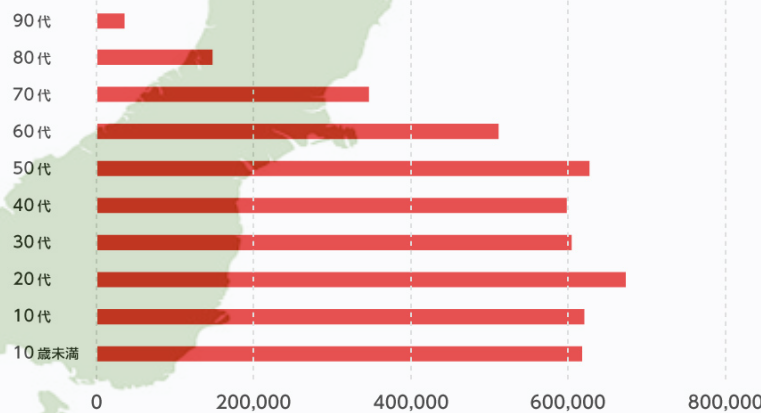
事業環境～ニュージーランド

- 移民政策により継続的に人口が増加し、公共交通機関が限られているため、移動手段として自動車利用が多い。
- 自動車の利用ニーズの高いプライムエージワーカーの比率が高い。
- 国内に自動車メーカーがなく、全て輸入車になるため自動車への輸入関税がない。
- アングロサクソン系先進法治国であり、商慣習相違リスクやカントリーリスクが少ない。
- GDP成長率も高く市場として安定的且つ継続的な成長が見込む。

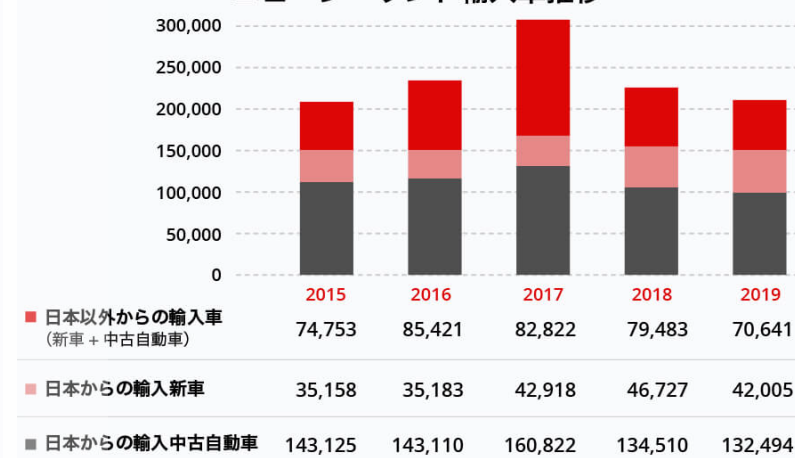
ニュージーランド人口推移図



ニュージーランド年齢分布図



ニュージーランド輸入車推移



事業環境～オーストラリア

- 移民政策により継続的に人口が増加し、公共交通機関が限られているため、移動手段として自動車利用が多い。
- 自動車の利用ニーズの高いプライムエージェンシーワーカーの比率が高い。
- 国内に自動車メーカーがなく、全て輸入車になるため自動車への輸入関税がない。
- アングロサクソン系先進法治国であり、商慣習相違リスクやカントリーリスクが少ない。
- 中古自動車の輸入には様々な制限があったが、政策が見直され門戸が開かれつつある。
- GDP成長率も高く市場として安定的且つ継続的な成長が見込む。
- 従来より日本車のシェアが高く、日本車の優位性が既に定着し、備わっている。

本資料お取扱い上のご注意

- ▶ 本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を通して、当社をご理解いただくために作成されたものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。
- ▶ 本資料に記載された将来の業績に関する記載は、当社が将来の業績を保証するものではなく、現時点において入手可能な期待・見積・予想および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、リスクや不確実性を有しております。
- ▶ 将来の業績は、経済情勢などの当社の経営環境、事業環境の変化等により予告なく変更することがございます。

予めご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ
総務・IRユニット

Mail:info@optimusgroup.co.jp

Tel:03-6370-9268 (IR直通)